

授業題目：幼年期福祉研究

担当教員：櫛田美雄

レポート題目：期末レポート

所属：人間教育専攻人間形成コース

学年：3年

学籍番号：(非公開)

氏名：谷 紗織

提出日：2010/10/20

「よい教師とはコミュニケーション」(仮題)

下下下下下下SS

I :

((うなずく))((あごを上げる))

II

S : を : ね : ? 社会で自明としてされているから : どうしてもその :

SS

I :

II

S : あの : 社会性を持たすには : 一つの軸を持つとかんとあかんから :

SS下下下下下下下下

I :

((あごを上げる))

((口を尖らせる))

II

S :

うん

((うなずく))

((うなずく))

((うなずく))

SS

I : .h hあたしが思ったんは : え : 怒るっていうのんは : 自分の感情とかで : 怒るっていうんで :

II

S :

あ : : :

((うなずく))

((口を動かす))

SS

I : 叱るっていうのんは : 相手のためを思って : 言ってあげるっていうのんが叱るかなって

IIIIIIIIIIIIII右右右右II

S :

SS

I : 思ったんですけどだから教育やったら : 全部怒る () 全部叱るになるんじゃないかなって思ったから :

I I

S :

((うなずく))

S S

I : 高学年で : は怒るになるってというのは何でなんだろうって (.) 思って

I I

S : だ : あの教師にとって : 感情的になることって絶対ない (.)

S S

I :

I I

S : ないようにしなあかんと思う (.) だから

S 下 S S S S S S S S

I : だから叱るじゃないん?

3-3. 静止画

図1 登場人物【S(左)とI(右)】



図2 I(右)によるS(左)への質問



4. 分析結果

4-1. 引用データ選択理由

Sの意見についてIが理解できないことをIが質問する場面を分析することによって、どのようにしてSが自分の意見を相手に説明し、納得させるのかが見ることができると思い選択した。

4-2. 自己分析

IはSの説明を理解できないで、質問をする前に口を尖らせている。IがSに質問をすると、Sは体を揺らしながら、より言葉を強調し、短い文節に区切って説明をした。これにより、より相手の理解を促そうとしている姿がうかがえる。それに対してIはまだ納得がいかに自分の考えを提示する。それについてSが意見しようとするすかさずIは自分の質問を投げかけた。この行動によりIはSの説明に納得がいていないことがわかる。するとSは目を見開きながら、より強調した口調で、短い文節に区切り回答した。Sは語尾をのぼすことでIのうなずきを促している。Iははじめはうなずいて聞いているが、眉をひそめたり、下を向いたり、あごを上げたりして、まだ納得していない様子である。そしてついにはIは口を尖らせて、自分の意見を主張する。Iが語尾をのぼしているときにはSはうなずいており、理解をしようとしている。途中でSは口を動かしており、意見を言いたがっていることがわかる。その後のSの発言に重なるようにIが質問していることから、Iは自分の意見を主張したいということがわかる。

5. まとめの感想

トランスクリプトを作成するのはとても大変ですが、普段見えていない事象が見えてきてとても興味深かったです。語尾をのぼして相手にうなずきを促している行動など、日常には、気づいていない秩序がたくさんあるのだと気づくことができました。